

## 最近の道内経済動向

- 道内景気は、緩やかに持ち直している。
- 先行きは持ち直し基調が続くとみられるものの、物価高の影響が広がることで持ち直しのテンポは緩やかなまま推移すると予想している。

(注) 基調判断は、鉱工業生産を除き2023. 8. 22時点で入手可能な主要経済指標を参考とした(6~7月実績が中心)。

### ●個人消費は持ち直し基調にある

6月の供給側の統計(商業動態統計など)をみると、百貨店・スーパー(前年比+3.8%)やコンビニエンスストア(同+6.0%)などの販売額のほか、新車販売台数(軽含む乗用車、同+17.0%)も増加した。需要側の統計をみると、家計の消費支出額(6月の家計調査を基に算定)は同+3.5%と2ヵ月ぶりに増加となった。総じて個人消費は物価上昇が足かせとなりつつも、持ち直し基調にある。

### ●観光は緩やかに持ち直している

外国人入国者数(7月)は14.7万人と、新千歳空港の国際線定期便運航の再開が本格化に向かう下、緩やかに持ち直している。6月の来道者数(国内交通機関経由)は、120.0万人(前年比+36.3%)と2021年11月以降、前年比で増加が続いている。水準では、コロナ前(19年6月)と同程度の水準まで回復した(19年比▲0.8%)。

(注) 外国人入国者数とは、道内で入国手続きした外国人数。来道者数とは、国内路線(航空、JR、フェリー)利用による旅客数(国内客と道外で入国手続きした外国人客)を指す。

### ●住宅建築は減少傾向にある、設備投資は持ち直しの動きがみられる、公共工事は緩やかに持ち直している

新設住宅着工戸数(6月)は、前年比+10.7%と10ヵ月ぶりの増加となった。利用関係別にみると、持家(同▲15.3%)が減少した一方、貸家(同+20.9%)、分譲住宅(同+15.6%)ともに増加した。日銀札幌支店が7月3日に公表した企業短期経済観測調査(北海道)の設備投資計画[ソフトウェア・研究開発を含む設備投資額(除く土地投資額)]では、23年度の全産業は前年比+1.4%、製造業は同+24.1%、非製造業は同▲8.2%となった。昨年度の設備投資を大幅に押し上げた球場建設の反動もあり、非製造業の設備投資は減少を見込むものの、札幌市内の再開発やGX、DX関連投資の進捗もあり全体では持ち直し基調を堅持するとみられる。公共工事出来高(6月)は1,175.1億円(前年比+11.2%)と6ヵ月連続で増加した。公共工事請負金額(7月)は1,001.4億円(同▲2.4%)と4ヵ月ぶりの減少となった。

### ●生産は弱含んでいる

鉱工業生産(6月)は、前月比+0.1%と3ヵ月ぶりの上昇となった。化学・石油石炭製品(同+11.8%)などが上昇した一方、金属製品(同▲25.1%)などが低下した。

### ●輸出は持ち直し基調が一服している

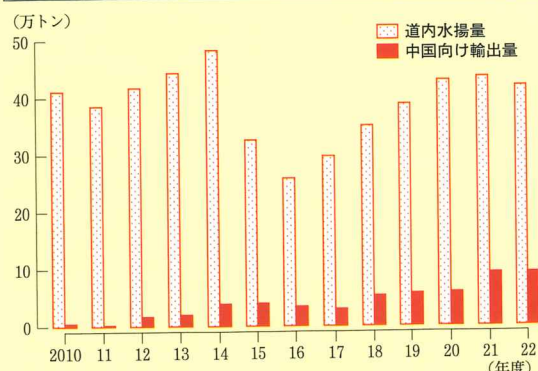
7月の通関輸出額(速報値)は321.1億円(前年比▲23.4%)と2ヵ月ぶりの減少となった。品目別では、「一般機械」(同+5.2%)や「鉄鋼」(同+2.9%)などが増加した一方、「魚介類・同調製品」(同▲27.2%)や「自動車の部分品」(同▲10.8%)などの減少に加え、再輸出品(同▲95.2%、▲96.6億円と前年の反動)の減少が全体を押し下げた。

### ●雇用情勢は緩やかに持ち直している

6月の有効求人倍率(パート含む常用)は、0.97倍(前年差▲0.07ポイント)となった。有効求職者数(パート含む常用)は88,687人(前年比▲0.8%)と10ヵ月連続で減少となった。雇用情勢は総じてみれば緩やかに持ち直している。

道産ホタテの中国向け輸出

道内から中国へ輸出されるホタテを数量ベースでみると、2022年度の1年間で9.3万トンに及んだ。22年度の中国向けホタテの輸出量は10年度(0.5万トン)から約19倍まで急増、さらに道内のホタテ水揚量に対して2割強を占める。昨今、中国による日本産海産物の禁輸措置の影響は大きく、道産ホタテの販路見直しが求められる。



(注) 中国向け輸出には、殻を取り除いた加工済みホタテが含まれる(22年度は5%程)。そのため殻の重さを考慮すれば、輸出量は図示した水準よりも幾分上振れるとみられる。  
(出所) 財務省「貿易統計」などを基に道銀地域総合研究所作成